

両生類

- ▶ 両生類は、イモリやサンショウウオのように尾があるものと、カエルのように尾が無いものがあります。水中に産卵するため水と切り離せない生きもので、成長するとその多くが陸上生活するため、生きていくためには水中と陸上の両方の環境が必要です。
- ▶ 卵から孵ったオタマジャクシは水中にすむイモリやヤゴなどの餌、成体はヘビやサギなどの鳥類、キツネなどの哺乳類の餌となり、こうした関わりの中で生態系を支えています。
- ▶ 市内の山間部には、初夏に溪流で産卵するカジカガエルなど、山間部から丘陵部の水田周辺には、アカハライモリ、シュレーゲルアオガエルなど、平坦部の河川や水田では、ツチガエルやヌマガエルなどが生息しています。また、ため池を中心に、特定外来生物のウシガエルが生息しています。
- ▶ 近年、水田の放棄、開発による森林伐採、水田の圃場整備などによって、両生類の生息環境が変化し、水辺と森林を行き来する両生類の生息に多大な影響を及ぼしています。



生きものの主な生息環境を表示しています。



外来生物は悪者?

外来生物とは、人間によって本来の生息地とは別の土地へ移動させられた生きもののことです。日本では「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(通称: 外来生物法)によって、特定外来生物を指定し、その取扱いを規制し、必要に応じて防除がおこなわれています。

市内では、特定外来生物のウシガエルやアライグマが生息しています。もともといた在来生物を捕食してしまうなど、生態系に多大な影響を及ぼす種ではありますが、人間の都合によって連れてこられた生きものであり、害はありますが、悪者では無いことを心にとめておきたいものです。



ウシガエルの幼体

爬虫類

- ▶ 爬虫類は、主に陸上にすんでいて、殻で包まれた卵を産み、体は鱗で覆われているのが大きな特徴です。多くが環境温度の影響を受けて体温を変動する外温動物で、道端の日なたでじっとしているトカゲや、河原の石の上でカメの姿を見かけるのは、日光浴をして体温を上げているためです。
- ▶ 爬虫類の多くは、餌になる動物がいる環境に生息しています。市内では、山間部から平坦部の水田周辺において、カエル類を主な餌とするシマヘビやヤマカガシなど、平坦部の河川では水中の魚や貝類などを餌とするスッポンなどのカメ類、農地や道端の草むらなどで昆虫を餌とするトカゲやカナヘビなどが生息しています。
- ▶ 近年、河川の護岸工事、農地の圃場整備などによって、コンクリートで固められた河岸や水路が増加し、爬虫類の隠れ場所や餌動物が減少し、生息環境が減ってきているとも言われています。市内の山間部にある棚田や丘陵部では、石積みに隠れるマムシや、石積みで日光浴するトカゲの姿が見られました。先人から受け継いだ石積みとともに、石積みすみかとする爬虫類も見守り続けていきたいものです。



生きものの主な生息環境を表示しています。



家の守り神

アオダイショウというヘビは、古くから家にすみつき、農家にとっては困った相手のネズミを食べてくれる「家の守り神」として崇められてきました。ネズミは、養蚕(ようさん)の大敵で、カイコに病気を運んだり、カイコをかじって殺したりするほか、保存している食料を食い荒らす農家にとっては害獣でした。現代では、嫌われることも多いヘビですが、古くは人間の生活と密接につながっている生きものだったのです。



アオダイショウ

アカハライモリ (イモリ科)

Cynops pyrrhogaster



水田やため池、水路などに生息。昆虫やミミズなどを食べます。体は背中が黒色で、腹側の鮮やかな赤い模様が特徴です。繁殖は4~7月で、水草や落ち葉に卵を1粒ずつ産みつけます。



ニホンヒキガエル (ヒキガエル科)

Bufo japonicus japonicus



山地の畑や森林などに生息。昆虫やミミズなどを食べます。体を守るため皮膚から毒を分泌するため、触ったら必ず手を洗いましょう。繁殖は10~5月で、ひも状の卵を産みます。



ウシガエル (アカガエル科)

Lithobates catesbeianus



雄は「ウォー・ウォー」と牛に似た声で鳴きます。池や川などに生息し、昆虫、魚、甲殻類のほか、鳥など、口に入る大きさである動物は食べてしまうため、他の生きものへの被害が深刻です。



ニホンスッポン (スッポン科)

Pelodiscus sinensis



河川の中流域や大きな沼などに生息。噛む力が強く、甲殻類、魚、貝、水生昆虫などを食べます。警戒心が強く、素早く動きます。背中の中は、平で柔らかい皮膚で覆われています。



ニホントカゲ (トカゲ科)

Plestiodon japonicus



川辺や石垣など日当たりの良い場所に生息。昆虫、クモ、ミミズなどを食べます。幼体は尾が青く成長すると茶色になります。体表面に金属のような光沢があるのが特徴です。



ニホンカナヘビ (カナヘビ科)

Takydromus tachydromoides



草地や農耕地などに生息。昆虫、クモ、ミミズなどを食べます。トカゲに比べて、尾が体長の2/3と長く、体の表面は茶褐色で隆起のある鱗で覆われており、トカゲのような光沢はありません。



ツチガエル (アカガエル科)

Glandirana rugosa



河川や沼などの水辺に生息。昆虫類を食べ、体の表面にいぼ状の突起が多いのが特徴です。オタマジャクシのまま越冬することが多く、冬でも水のある環境が必要です。



ヌマガエル (ヌマガエル科)

Fejervarya kawamurai



水田を代表するカエル。昆虫などを食べます。水が高温になっても耐えられるため、九州の真夏の水田でも生き延びることができます。5~8月に水田や水草などに卵を産み付けます。



カジカガエル (アオガエル科)

Buergeria buergeri



溪流や川の上流に生息。昆虫類を食べます。鳴き声が美しく万葉集に鳴き声を詠んだ歌があります。体は灰褐色で川原の石に似た保護色をしています。4~8月、河床の石の下に卵を産みます。



シマヘビ (ナミヘビ科)

Elaphe quadrivirgata



平地や山地の水田や小川、山林に生息。カエル、トカゲ、ネズミなどを食べます。目の虹彩が赤く、細身で背中に黒い4本の縦縞があるのが特徴ですが、縦縞がない個体もいます。



アオダイショウ (ナミヘビ科)

Elaphe climacophora



山林や田畑、人家などに生息。カエル、トカゲ、ネズミなどを食べます。鱗が細かく体に伸縮性があり、大きな獲物も飲み込むことができます。目の虹彩は褐色、シマヘビよりも体が太めです。



ヤマカガシ (ナミヘビ科)

Rhabdophis tigrinus



主に水田や湿地周辺に生息。カエルや魚などを食べ、目が大きく虹彩は金色がかり、背中は褐色の地に赤、黒、黄、緑が入り組んだ複雑な模様をしています。強い毒を持っています。



☑ うきは市の生きものを見つけてみよう!

☑ うきは市の生きものを見つけてみよう!